講演会 報告書

今あらためて福島から学び
次世代に伝えるために

開催日：2020 年 1 月 18 日（土）

記録：　かながわ「福島応援」プロジェクト（kfop）
作成：　かながわ「福島応援」プロジェクト（kfop）

2020 年 2 月 5 日発行　不許複製･禁無断転載

1. はじめに

2011 年 3 月に発生した東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所の事故からまもなく丸 9 年、福島県では避難指示の解除も段階的に進み、特にこの 1～2 年は顕著な変化が見られますが、いまだ原発事故は収束したとは言えず、多くの課題が残っています。生活環境がまだ整っていない地域もあります。原発事故で生活が一変し、いまだ故郷を取り戻せずにいる方々の心情を深く理解するため、また、私たちの世代の体験を次世代に伝えていくためには、現地の状況と課題を正しく知る必要があり、私たち福島県外に住む者も、関心を薄れさせることなく、福島について学ぶべきことはまだ多くあります。

かながわ「福島応援」プロジェクト（kfop）は、神奈川から福島におもむき現地の方々をお手伝いすること、経験を伝えることを柱として活動を続けており、また今後も長く福島にかかわり続けたいと考えています。

その事業のひとつとして、被災当事者の方や現地で活動している方、福島に関するアクションにかかわっている方などをお招きして勉強会や講演会を毎年企画しています。このうち講演会は、広く一般の方をターゲットとして、福島の現状を伝え、他人事ではなく自らかかわりを持つきっかけを提供し、関心を持ち続けていただけるような場づくりを重視しています。

この第 9 回講演会では、ご自身の体験や人生を題材としながら、伝え問い直していく取り組みを行っている吉川彰浩さんを講師としてお招きしました。さまざまな葛藤と戦い少しずつ乗り越えてきた経緯と、ご自身そして「地域での暮らし」の再生についてお話しいただきました。

福島に関心を持つ方、講師にご縁のある方々に広くご参加いただきました。原発事故を経験した福島から学んだことを自分の言葉でどう伝えていくか、あらためて考えるきっかけになったのではないかと思います。

併せて、この講演会の開催を通じて以下の効果を狙いました。

- 震災と原発事故の影響を受けた地域の現状を神奈川の方々に伝える
- 当事者から直接お話を聞くことで、学び、共感する
- 原発事故から何を学び伝えることができるか、あらためて考えるきっかけを作る
- 新しい方々との情報交流も図り、持続的な福島の応援・発信につなげていく
- 団体間の協力と交流の機会としても活用する

2. 開催概要

(1) 日時・式次第

開催日時　2020 年 1 月 18 日(土)15:00～16:45

会場　鶴見公会堂 第 1･第 2 会議室
神奈川県横浜市鶴見区豊岡町 2-1 フーガ 1 号館(JR 鶴見駅西口から徒歩 1 分)

タイトル　今あらためて福島から学び次世代に伝えるために

登壇者　一般社団法人 AFW 代表 吉川彰浩さん(福島県いわき市在住)

対象　福島、防災・減災、伝承などに関心のある方、一般市民

主催　かながわ「福島応援」プロジェクト(kfop)
協賛　azbil みつばち倶楽部

協力　一般社団法人 AFW
NPO 法人かながわ避難者と共にあゆむ会
かながわ東北ふるさと・つなぐ会
認定 NPO 法人かながわ 311 ネットワーク
かながわ災害ボランティアバスチーム

式次第

〔ごあいさつ〕..... 15:00～15:05
かながわ「福島応援」プロジェクト(kfop)　代表 渡辺孝彦

〔ご講演と質疑応答〕..... 15:05～16:35
一般社団法人 AFW 代表 吉川彰浩さん

〔閉会あいさつ〕..... 16:35

〔アンケートご記入・名刺交換〕..... 16:35～16:45

※講演会終了後に近隣の飲食店で講師を交えた懇親会を開催(17:30～20:00)

(2) 参加者実績

講演会　46 人(うち一般 22 人、登壇者・主催団体スタッフ 24 人)
懇親会　20 人

(3) 登壇者略歴

◆吉川 彰浩(よしかわ あきひろ)さん

茨城県常総市出身 39 歳

東京都日野市にあった東電学園高等部を卒業後、東京電力に入社し(1999 年)、現在帰還困難区域となっている双葉町に暮らしながら、福島第一原子力発電所で保守業務を行う。2008 年、福島第二原子力発電所に転属。

2012 年に東京電力を退職し、その後一般社団法人 AFW を立ち上げ、福島第一原子力発電所および原子力災害とはどのような意味を社会に生んだのか、自身の体験や人生を題材としながら、伝え問い直していく取り組みを行っている。

取組内容:定期的な発電所の視察、福島第一原発が知れるツールの開発(廃炉冊子、書籍、ジオラマ等)、東京電力・住民・政府をつなぐ座談会の開催、企業・団体向け研修受け入れ、中高修学・研修旅行受け入れ、大学での講義、新聞・TV・Web ニュースを通じた情報発信等。

3. 講演の内容

吉川さんにご持参いただいた東京電力福島第一原子力発電所のジオラマを会場前方に設置し、必要に応じて参照しながらご説明いただくことにした。はじめに、吉川さんより、スライドに沿ってご講演いただいた。以下その要約を示す。

最初に講演依頼で「今あらためて福島から学び次世代に伝えるために」というテーマをいただいた。この「福島から学ぶ」とはどういうことか、「原発事故から学ぶ」と置き換えられると考えてお話ししたい。

私は事故当時、東京電力の職員として働いており、現在も福島に住んでいる。原発事故には日々向き合っている。原発事故が起こったとき、自分の仕事がふるさとを奪ってしまったとも思ったし、自分のふるさとこそ自分が何かしなければと思った。それで東京電力を辞職し、任意団体を立ち上げた。

AFW はもともと、Appreciate Fukushima Workers の頭文字で、Appreciate とは、「正当に評価する、感謝する」という意味。現在では活動内容は当時と異なっているが、福島の過酷な現場で働くたくさんの方々を正当に評価し感謝しようという意味を、団体名として残している。

AFW の理念、キーワードは「暮らし」。日常の暮らしを基に考えていこうと決めた。

双葉郡の楢葉町で「木戸の交民家」という民泊もできる施設を友人と運営している。田んぼもやっていて、今年は400kgの米が取れた。

生まれは茨城だが、一番長く住んでいるのは福島。次世代にどんなふるさとを残せるか。私が何もしなくても地域は残ると思うだが、「残してもらった」と思えるふるさとを残したい。

自分が一番役立てることをやろうと考えたとき、私は原発で 14 年専門職として働いてきたため詳しい。単に「情報」を共有するのではなく、そこからの「学び」を共有する。自分の知っていることを、顔が見える関係で伝えていきたい。この場所をどのように残していくか、みんなで話し合いながら進めていきたい。実際に来ていただくのが難しいのであれば、皆さんのところに会いに行けないかと考えて作ったのがジオラマ。

また事故からの学びの共有として、ジオラマを利用した講話の依頼や、修学旅行の受け入れなども増えてきている。

自分の半生を振り返ってみると、スライドに示したような曲線で表せる。小中学校ぐらいまでは低迷していた。母子家庭だったため家が貧しく高校の学費は出せないと母に言われ、大学に行くのが当たり前の時代に高校も行けないのかとショックを受けた。そんなとき、東京電力の社員になるための学校が東京にあり、学費は無料だと伯父が教えてくれた。扱いは準社員で、いわば高校のときから東京電力の社員だった。学校ではエネルギーについて一通り学んだが、卒業後に進む先を選ぶとき、当時は未来のエネルギーと言われていた原発を選んだ。学友と東京の灯りを眺めて「俺たちがあの電力を作るんだ」と話していた。

卒業と同時に双葉町にある寮に入った。何もない田舎だと思った。自分の仕事はメンテナンスだったが、発注元として承認印を押すのが仕事。現場で汗を流して頑張っているのは、自分よりも年配の協力社員の方々で、自分は敬語を使われる立場。しかし仕事が終わって町の居酒屋に行くと立場が逆転し、おじさんたちに「吉川」、「吉川」とかわいがってもらった。どこに行っても知り合いばかり。町の運動会にも参加していた。浪江出身の妻と結婚して家族ができたとき、ここがふるさとだと思うようになった。この頃が幸せの絶頂期だった。

その当時は原発が安全かどうかと問われると、「このような状況に対してはこのような対策がされている」、つまり「事故は起きない」という前提で答え方をしていた。しかし事故は起こった。ひどく落ち込み、悩みながら活動を続ける中で、少しずつ回復してきた。それは、以前と変わらずに接してくれる人や、新しくできた仲間との地域での活動があるからだと思う。

以前の自分の何がダメだったのかを考えてみた。震災前は「仕事はお金をもらうためにする」、「人のことは関係ない」、「できないことは人のせい」という考え方だった。今は、「自分は社会の中にいる」、「人は私の中にある大切な存在」だと考えが変わった。

これからもこの地域で丁寧に暮らしていきたいと思っている。本当の意味で自分を大切にしたい。自分は誰かに影響を及ぼしている。だからこそ選択や行動は一度立ち止まり省みる。一番大切なことは「みんなと人生を楽しむ」こと。本当は、大切な人たちを苦しませてからではなく、自分の日常から学べるはずのことだった。自分たちが預かっているもの、誰かの暮らしを預かっている、ということを分かっていなかった。

次世代に何を伝えるか。子どもには、きれいごとの言葉は通じない。「おじさんの失敗を聞いてくれるかな」というと聞いてくれる。逆に教えてもらうことも多い。

自分がやりたいことは一人ではできないので、ぜひ仲間になってください。

続いて参加者からの質問を受けながらやり取りしていただいた。

Ｑ　東電の学校では原発の安全性について、どのように教えていたのか？

Ａ　設備や安全対策について学び、知識としては持っている。安全ですかと問われたら、安全かどうかではなく、様々な段階での対策について説明していた。

Ｑ　数年前とはずいぶん雰囲気が変わられたが、その理由は？

Ａ　変わった理由のひとつに、時間もあったと思う。極限までの罪悪感はあったし、それをほぐしてくれた人たちがたくさんいた。一時「こんなにしているのに、なぜ人がいなくなってしまうのか」と思った時期もあったが、とっつきにくかったのだと思う。農業を始めたのも大きかった。ふるさとにいる人たちに救ってもらったのだと思う。ひどいころの自分を知っているのに、捨てないで付き合ってくれている人がいるから変われたのかなと思う。

Ｑ　以前に廃炉講座でお話を聞いたが、その頃はもっと堅い話をされていた。

Ａ　原発から話をスタートするのではなく、まちの話をしてから、原発の話をするようになったら、聞いてくれるようになった。順番を間違えていたと思う。

Ｑ　ジオラマと模型について少し説明してほしい。

Ａ　事故によって何十万人の方を苦しめたものでもあるし、逆に忘れてはいけないのは、これがあったおかげで何百万人もの暮らしをよくしてきた、という両面があることを知らないとならない。

〔ジオラマと模型を見ながらの説明〕

・　水素爆発、炉心溶融、デブリ探査、取り出し方法の技術開発
・　敷地の舗装や凍土壁設置による流入汚染水の削減、処理水タンクの容量の限界
・　トリチウム、科学的には安全だが「気持ち悪い水」である処理水をどうするか
・　ケンカにならない協議が必要、開かれた情報開示
・　中間貯蔵施設予定地の大きさ、予定地の取得率

最後に、kfop 代表の渡辺から閉会の挨拶をして締めくくった。

ジオラマで説明

ジオラマを囲む参加者

別紙１　広報用チラシ

kfop 2019年度kfop講演会
講師
一般社団法人AFW 代表
吉川 彰浩さん
今
あらためて
福島から学び
次世代に
伝えていくために
2020年1月18日(土)15:00～16:45(開場14:30)
鶴見公会堂 第1・第2会議室／定員：80名(事前申込の方を優先)
参加のお申し込みはkfopホームページ、Facebookイベント、またはメールで受け付けます(裏面参照)
東日本大震災と東京電力福島第一原発事故からまもなく9年が過ぎようとしています。
私たちは福島から何を学んだでしょうか。あなたは次世代に何を残し、何を託しますか。
今回は、一般社団法人AFW代表 吉川彰浩さんを講師にお招きします。
この講演会が、皆様とともに学び、考えるきっかけとなるよう願っています。
主催：　かながわ「福島応援」プロジェクト（kfop）
協賛：　azbil みつばち倶楽部
協力：　一般社団法人AFW、NPO法人かながわ避難者と共にあゆむ会、かながわ東北ふるさと・つなぐ会、
認定NPO法人かながわ311ネットワーク、かながわ災害ボランティアバスチーム

別紙 2　参加者アンケート用紙

講演会（2020年1月18日）に関するアンケート

Web アンケートフォームはこちら

1.　今回の講演会の情報をどこで知りましたか？　丸を付けてください。

a. 主催団体・講師による告知
　a-1　かながわ「福島応援」プロジェクト（kfop）
　a-2　一般社団法人 AFW／吉川彰浩さん
b. 協力・協賛団体による告知
　b-1　かながわ避難者と共にあゆむ会
　b-2　かながわ東北ふるさと・つなぐ会
　b-3　かながわ 311 ネットワーク
　b-4　かながわ災害ボランティアバスチーム
　b-5　azbil みつばち倶楽部
c. 友人・知人からの紹介
d. インターネット検索
e. その他（　　）

2.　今回参加した理由は？（いくつでも）

a.　福島に関心があるから
b.　登壇者に関心があるから
c.　講演のテーマに関心があるから
d.　その他（具体的に：　　）

3.　今回の講演のテーマや進行はいかがでしたか？

a.　よかった　b. 普通　c. よくなかった
（どのような点が？　　）

4.　今回の講演についてご感想・ご意見など、自由にお書きください。

（　　）

5.　今後の講演会の企画に向けて、どのような方のお話を聞いてみたいですか？

（　　）

6.　あなたご自身についてお答えください。（あてはまるものに〇をつけてください）

性別	男性 ・ 女性
年代	20 代 ・ 30 代 ・ 40 代 ・ 50 代 ・ 60 代 ・ 70 代以上
職業	会社員/会社役員 ・ 公務員 ・ 自営業 ・ パート/アルバイト ・ 学生 ・ 専業主婦（主夫） ・ その他 ・ 働いていない
メール	kfop からの今後の情報提供を希望される場合はメールアドレスをご記入ください

別紙３　参加者アンケート集計結果

参加者数	43
回答数	28　（65%）

１．今回の講演会の情報をどこで知りましたか？

a.	主催団体・講師による告知	
	a-1　かながわ「福島応援」プロジェクト（kfop）	24
	a-2　一般社団法人 AFW／吉川彰浩さん	1
b.	協力・協賛団体による告知	
	b-1　かながわ避難者と共にあゆむ会	3
	b-2　かながわ東北ふるさと・つなぐ会	2
	b-3　かながわ 311 ネットワーク	1
	b-4　かながわ災害ボランティアバスチーム	2
	b-5　azbil みつばち倶楽部	0
c.	友人・知人からの紹介	1
d.	インターネット検索	2
e.	その他	0
x.	無回答	3

２．今回参加した理由は？（いくつでも）

a.	福島に関心があるから	23
b.	登壇者に関心があるから	4
c.	講演のテーマに関心があるから	19
d.	その他	2

（コメント欄）

- ますます、福島について知りたくなった。現地にも足を運びたい。
- ５～６年前に話をきいて変と思い、その後どう変わったかと。

３．今回の講演のテーマや進行はいかがでしたか？

a.	よかった	24
b.	普通	5
c.	よくなかった	1

（コメント欄）

- 講師のお人柄、ジオラマ
- 東電の方の苦しみを知った。
- ジオラマを囲んでの話が良かった

４． 今回の講演についてご感想・ご意見など、自由にお書きください。

- ここに書いて、吉川さん自らが「あの頃はおかしかった」と言われて驚いた。良き方向にむかわれていると思います。一緒に何かできれば。
- ありがとうございました。
- 福島のこれから難しさ
- とてもよい話でした。考えさせられました。
- 吉川さんの考えることあきらめない！ここまでには、つらい大変な日があったと分かった。私の友人も東京にいるが、あえて話したことがなかった。いつか話しをしてみたいと思った。
- 神奈川に核燃料をつくる会社があり、動く原発＝原子力空母がある現状をあらためて思いました。世の中に他人事（ひとごと）はない。私はどう生きていくか…。
- とてもよかったです。
- 吉川さんの自分の経験をもとに話されたことがリアリティがありとても考えさせられた。
- 他者へも伝えていけたらと思います。
- 東電について最後の20分くらいで話していただいたこと、非常にわかり易かったです。タンク内の水処理の方針や変換、凍土壁のこと、ニュースで読みますし、ききますがよくわからなかったです。テーマの「伝えていくために」…そのあとの文言が気になっていましたが、この時間にお話されたように、若い人、私たちがわかりやすく、福島のことがわかりつづけていくようであればと思います。ひきつづきわかり易く解説していただければ福島への関心は皆持ちつづけると思います。
- 人生観のみで持学論は分かる。今後の転用、避難解除後の帰途への道、廃炉、ジオラマの説明がよかった。
- 1.「仲間になってください」とか良くなったのは農業にふれたのが大きいというのが印象的でした。
  2.ジオラマを高さにして処理水は1万倍うすめてあるというのが説得力ありました。
- 吉川さんよく決断しましたね！！
- 福島が抱える課題である原発の話を聞くことができ良かったです。心の変還についてもお話しして頂き、とても参考になりました。
- 落ち着いてお話を伺えてよかったです。
- 時間がなく、たくさんのことは書けませんが、災害のある、なしに関わらず、考え続けないといけないことだと思いました。本当にありがとうございました。
- 吉川さんの活動にご家族のみなさまは支えていただいているのか？反対はないのか？

- 2011 年以降、数度東北を訪問しておりますが、機会が合わず福島に訪問しておりません。訪問したい気持ちがありながら、延ばし延ばしになっていたところ、福島の話がきける機会を知り、参加させて頂きました。これをきっかけに、福島を訪問する機会が作れればと思います。
- ジオラマを初めて見ました。原発の現状や工程方法等今後の展開に期待します。
- 予想していた内容とは少し違っていましたが、おもしろかったです。
- 過去の自分と今の自分をみつめて、つらいことも正直にお話し下さったのだと思います。反省に至ったことを元に今、これから先、自分が何を成していくべきなのかを真剣に考え行動されている人なのだと思いました。
- 原発については、どうしてもむずかしい、という気持ちが大きく、又、どうしたらいいかわからなかった。吉川さんの関心を持ってほしい、でほっとしました。
- とても意義深いお話しをきかせて頂きました。一方で、告知にあったテーマとは合致していなかったかもしれません。個人の体験より、多くの現状を知りたいと思って来場しました。しかしながら得ることは、模型を使った説明は具体的でイメージしやすく胸が痛みました。吉川さんの語り口に心を打たれました。ありがとうございました。

６． 今後の講演会の企画に向けて、どのような方のお話を聞いてみたいですか？

- いろいろお話ききたいです。
- 10年後の避難元へのプロセス等
- 地元密着型の事業を運営され、その人ならではのご経験のある方、福島県から語り部を依頼されていて、神奈川県に来ることができる方
- 防災、減災

７． あなたご自身についてお答えください。

性別

男性	1
女性	
無回答	

年代

20 代	
30 代	
40 代	1
50 代	
60 代	
70 代以上	
無回答	

職業

会社員/会社役員	1

公務員
自営業
パート/アルバイト
学生
専業主婦（主夫）
その他
働いていない
無回答

※自由記述については原則としてご記入いただいたまま掲載していますが、明らかに誤字脱字と思われる記述は修正させていただきました。